サブウーファーシステム

YST-FSW150/ YST-FSW050

YST-FSW150

YST-FSW050

ご使用の前に必ずお読み下さい。

このたびはヤマハ製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

■ 本機の優れた性能を十分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書と保証書をよくお読みください。お読みになったあとは、保証書と共に大切に保管し、必要に応じてご利用ください。
■ 保証書は、「お買上げ日、販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

取扱説明書

保証書別添付

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	「～しないでください」という「禁止」を示します。
	「必ず実行してください」という強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。

この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

電源/電源コード

電源プラグは、見える位置で、手が届く範囲のコンセントに接続する。

万一の場合、電源プラグを容易に引き抜くためです。

下記の場合には、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- 異常なにおいや音がする。
- 煙が出る。
- 内部に水や異物が混入した。

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

電源コードを傷つけない。

- 重いものを上に載せない。
- ステープルで止めない。
- 加工をしない。
- 熱器具には近づけない。
- 無理な力を加えない。

芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

必ずAC100V (50/60Hz)の電源電圧で使用する。

それ以外の電源電圧で使用すると、火災や感電の原因になります。

分解禁止

分解・改造は厳禁。キャビネットは絶対に開けない。

火災や感電の原因になります。
修理および調整は販売店にご依頼ください。

設置

本機を下記の場所には設置しない。

- 浴室・台所・海岸・水辺
- 加湿器を過度にきかせた部屋
- 雨や雪、水がかかるところ

水の混入により、火災や感電の原因になります。

放熱のため、本機を設置する際には:

- 布やテーブルクロスをかけない。
- 仰向けには設置しない。
- 通気性の悪い狭いところへは押し込まない。

本機の内部に熱がこもり、火災の原因になります。

スピーカーケーブルは必ず壁などに固定する。
ケーブルに足や手を引っかけるとスピーカーが落下や転倒し、故障やけがの原因となります。

使用上の注意

雷が鳴りはじめたら、電源プラグには触れない。
感電の原因になります。

本機を落としたり、本機が破損した場合には、必ず販売店に点検や修理を依頼する。
そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

ポート(開口部)に異物を入れたり、落としたりしない。
火災や感電の原因になります。

本機の上には、花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・ロウソクなどを置かない。
水や異物が中に入ると、火災や感電の原因になります。
サブウーファーの振動により、物が落下してけがの原因になります。
接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因になります。

手入れ

電源プラグのゴミやほこりは、定期的に取り除く。
ほこりがたまったまま使用を続けると、プラグがショートして火災や感電の原因になります。

⚠ 注意

電源/電源コード

長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。
火災や感電の原因になります。

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。
感電の原因になります。

電源プラグを抜くときは、電源コードをひっぱらない。
コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

電源プラグは、コンセントの根元まで、確実に差し込む。
差し込みが不十分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積して発熱や火災の原因になります。

電源プラグを差し込んだとき、ゆるみがあるコンセントは使用しない。
感電や発熱および火災の原因になります。

設置

不安定な場所や振動する場所には設置しない。
本機が落下や転倒して、けがの原因になります。

直射日光のあたる場所や、温度が異常に高くなる場所(暖房機のそばなど)には設置しない。
外装の変形や、内部回路への悪影響が生じて、火災の原因になります。

ほこりや湿気の多い場所に設置しない。
ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因になります。

スピーカーの底面積より狭い場所や傾斜のある場所には設置しない。
スピーカーが落下や転倒して、けがの原因になります。

接続する場合は、アンプの電源を切る。接続方法は、それぞれの機器の取扱説明書に従う。

移動

移動するときは、本機および接続機器の電源スイッチを切り、すべての接続コードを外す。
接続機器が落下や転倒して、けがの原因になります。
コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

持ち運ぶときは、ポート(前面開口部)、前面のネットに手をかけない。
ポートが外れたり、ネットが破れたり、本機を落としたりして、けがの原因になります。

使用上の注意

必ず実行

電源を入れる前や、再生を始める前に、音量(ボリューム)を最小にする。
突然大きな音が出て、聴覚障害の原因になります。

禁止

音が歪んだ状態で長時間使用しない。
スピーカーが発熱し、火災の原因になります。

注意

環境温度が急激に変化したとき、本機に結露が発生することがあります。
正常に動作しないときは、電源を入れない状態でしばらく放置してください。

禁止

ポート(前面開口部)に手を入れない。
感電やけがの原因になります。

禁止

サブウーファーのすぐ前に、割れやすい物を置かない。
サブウーファーからの空気圧により、物が落下や転倒して、けがの原因になります。

禁止

本機に乗ったり、寄りかかったりしない。
落下や転倒したり、破損したりして、けがの原因になります。

お手入れのしかた

キャビネットを美しく保つため、柔らかい布で乾拭きするようにしてください。

手入れ

必ず実行

手入れをするときには、必ず電源プラグを抜く。
感電の原因になります。

禁止

薬物厳禁
ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。また接点復活剤を使用しない。
外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。

注意

年に一度くらいは内部の掃除を販売店に依頼する。
ほこりがたまったまま使用を続けると、火災や故障の原因になります。

音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

目次

はじめに

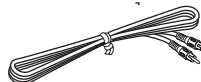
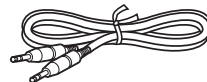
特長

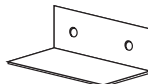
- 豊かな重低音を再生する、アドバンスド・
  ヤマハ・アクティブ・サーボ・テクノロジーII 搭載
- 置き場所を選ばない薄型でコンパクトな
  デザイン

付属品

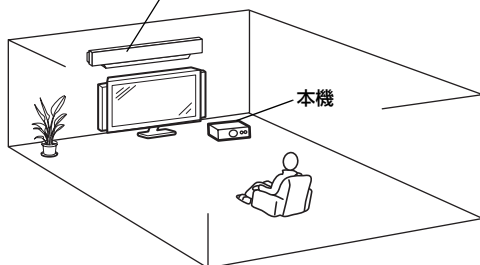
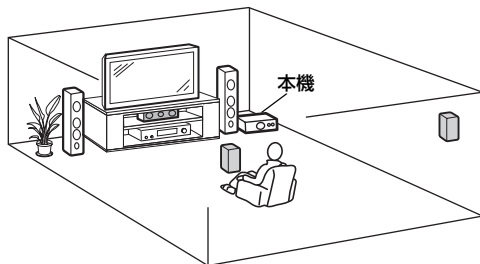
付属品を確認してください。

サブウーファー用ピンケーブル (5 m)

縦置き用パッド x 4

システム接続ケーブル (5 m) x 1

縦置きスタンド x 1
(YST-FSW150 のみ)

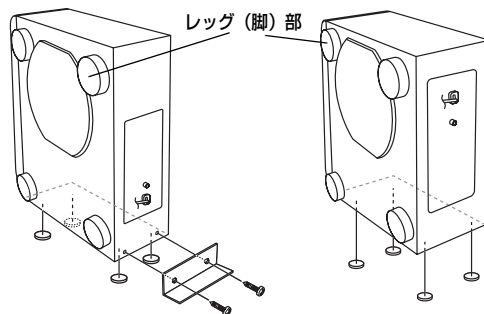
ネジセット x 1
（M4、16 mm x 2）
（YST-FSW150 のみ）

サブウーファーの設置

下図は本機の設置例です。

例 1： ヤマハ デジタルサウンドプロジェクターと使用する

例 2： マルチチャンネルスピーカーシステムの一つとして使用する

注意

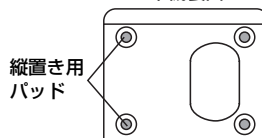
- 他の製品と本機を重ね積みしないでください。振動により他の製品に支障をきたす場合があります。
- 本機の前面、背面、裏面（レッグ（脚）部のある面）に十分な通気スペースを確保してください。また、厚いじゅうたんなどの上に設置しないでください。

ヒント

本機は、縦置きすることもできます。
縦置きする場合は、下図のように縦置きスタンドを付属のネジで取り付けてから（YST-FSW150 のみ）、縦置き用パッドを貼ります。

ヒント

本機をテレビラックなどの中に設置することもできます。

注意

本機の振動により、そばに置いた機器が共振したり異音が聞こえたりする場合は、レッグ（脚）の底面に縦置き用パッドを貼って使用してください。

接続のしかた

正しい接続のために

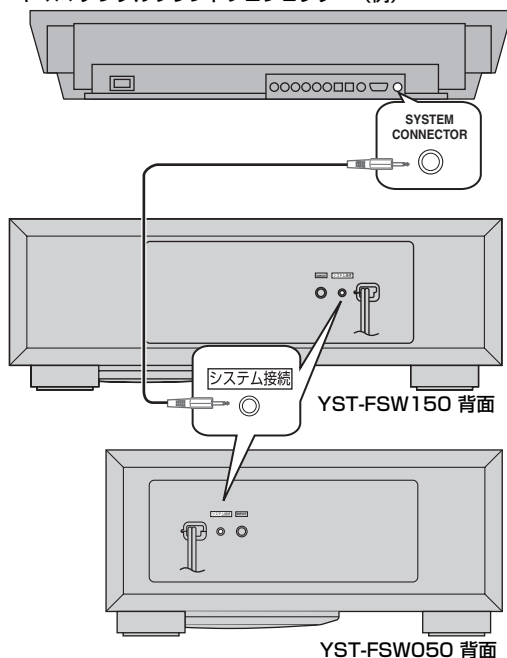
- 接続は、接続する全ての機器の電源コードを、コンセントから外したうえで行ってください。
- 接続する機器（アンプ、レシーバー、テレビなど）によっては接続方法や端子名が異なることがありますので、それぞれの機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
- 接続が終わったら、正しく配線されているか、もう一度お確かめください。

付属のサブウーファー用ピンケーブルを使用して、本機背面の INPUT 端子を AV アンプまたはテレビのサブウーファー出力端子に接続します。
アンプまたはテレビにサブウーファー出力端子がない場合は、それに代わるライン出力端子に接続します。

システム接続

本機にはシステム接続端子が備わっています。付属のシステムケーブルで本機とシステム接続端子があるヤマハ製機器を接続すると、接続した機器の電源スイッチにより、本機の電源モード（ON、OFF/SYSTEM）を切り替えることができます。この際、本機の POWER スイッチは OFF/SYSTEM の位置でご使用ください。

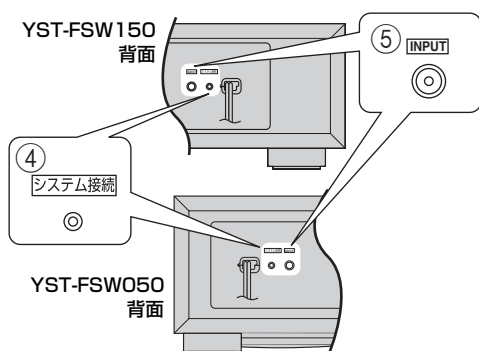
注意

- 本機の POWER スイッチが ON の場合、システム接続を行っていても電源モードは連動しません。本機の電源モードは常に ON の状態となります。
- システム接続をしても本機から低音が出力されない場合は、接続した機器の設定を変更する必要があります。詳しくは接続した機器の取扱説明書を参照してください。

電源コードの接続

電源コードの接続は、本機とその他の機器の接続が全て完了してからおこなってください。
電源コードは AC100V の家庭用の AC コンセントに接続してください。

YST-FSW150 背面

YST-FSW050 背面

サブウーファーの使い方

① **パワーインジケーター**

POWER スイッチを ON にすると緑色に点灯します。システム接続をしているときは、接続した機器のパワースイッチを入れることで、点灯します。

② **POWER スイッチ**

POWER スイッチを ON にすると、電源が入ります。

POWER スイッチを押して OFF/SYSTEM にすると、電源が切れます。または、システム接続した場合も OFF/SYSTEM の位置で使用します（7 ページ参照）。

③ **VOLUME ツマミ**

本機の音量を調節するツマミです。

右に回すと大きくなり、左に回すと小さくなります。

④ **システム接続端子**

システム接続をするときに使います。詳しくはシステム接続（7 ページ）をご覧ください。

⑤ **INPUT 端子**

接続する機器（アンプ、レシーバー、テレビなど）のサブウーファー出力端子またはライン出力端子（PRE OUT など）からの信号を入力する端子です。

音量バランスの調整

効果的な低音域再生をするためには、組み合わせるスピーカー（フロント）と本機の音が自然につながるように音量バランスを調整する必要があります。

1. 本機の VOLUME ツマミを (**0**) の位置にします。

2. アンプおよび各機器の電源を入れます。

3. 本機の POWER スイッチを押して電源を入れます。システム接続をしているときは、接続した機器の電源スイッチを入れてください。

4. 低音を含んでいるソースを再生します。

5. フロントスピーカーの音量をアンプで調節します。通常お聴きになる音量にします。（トーンコントロールなどは、一旦フラットにしてください。）

6. 本機の VOLUME ツマミを右側へ回しながら音量（ボリューム）を徐々に上げていき、フロントスピーカーとの音量バランスをとります。本機がないときよりも若干低音が聴こえるくらいにします。

ヒント

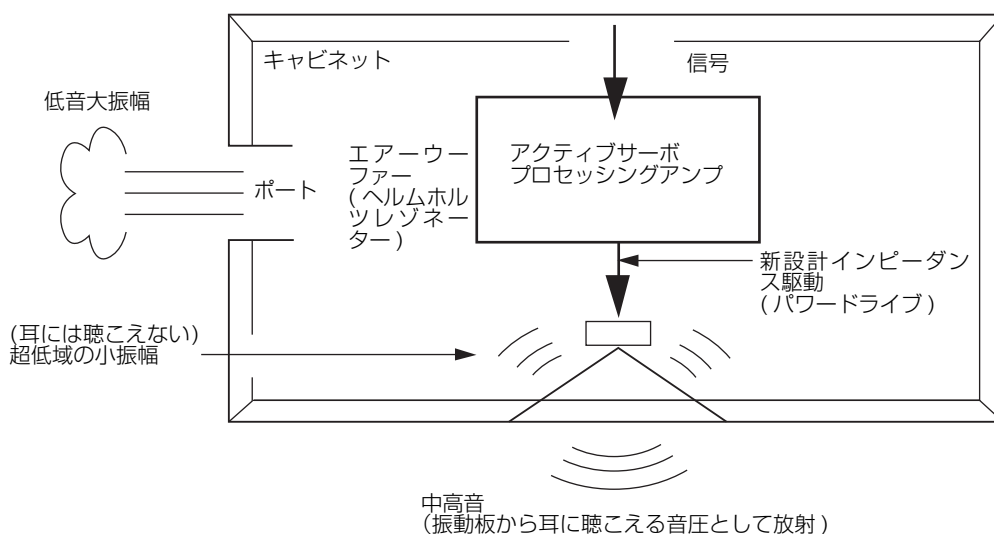
マルチチャンネルのホームシアターシステムでは、本機の VOLUME ツマミを中程度のレベルに設定するといいでしょう。

Advanced Yamaha Active Servo Technology II

アドバンスド ヤマハ アクティブ サーボ テクノロジー

1988年、ヤマハは独自のYST (Yamaha Active Servo Technology) 方式により良質でパワフルな低音域の再生を可能にするスピーカーシステムを世に送り出しました。この方式はアンプとスピーカーを電気的に接続することでアンプの動作を正確にスピーカーに伝え、かつスピーカーの動作をコントロールできます。

この技術は、アンプの負性駆動によりコントロールされたスピーカーユニット、そしてスピーカーキャビネットの容積とポートとの間で起こる空気共振を利用したもので、通常のバスレフ方式のスピーカーユニットよりも大きな共振エネルギー（エアウーファー）を生じさせるため、従来小さなキャビネットでは再生できなかったような低音が再生可能になりました。

ヤマハが新たに開発したAdvanced YST IIは、従来のYSTに数々の改良を加え、アンプとスピーカーの駆動をより理想的にコントロールするものです。アンプ側から見たスピーカーのインピーダンスは、周波数に応じて複雑に変動します。そこで、スピーカーユニットの共振点に合わせ、従来の負性駆動と併せて定電流駆動を適用する新設計回路を開発しました。この回路の採用により、従来のAdvanced YSTにくらべ動作がより安定し、濁りのないクリアな低音再生が可能になりました。

故障かなと思ったら

下の表にしたがってもう一度確かめてみてください。そのうえで正常に動作しない、あるいは下記以外の異常が認められる場合は、サブウーファーの POWER スイッチを切り電源プラグをコンセントから抜いたあと、お買い上げ店または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へお問い合わせの上、サービスをご依頼ください。

どんな状態ですか	ここをチェックしてください	こうすれば OK です
POWER スイッチを押しても本機の電源が入らない。	電源プラグの接続が不完全。	POWER スイッチを切ってから、電源プラグをコンセントにしっかり差し込んでください。
低音が出ない。または小さい。	低音域が少ないソースを再生している。	低音域が入っているソースを再生してください。
	定在波の影響を受けている。	本機の設置位置を変えてみてください。
	サブウーファー用ピンケーブルの接続が悪い。	サブウーファー用ピンケーブルをしっかり接続してください。
音が出ない。	接続が正しくされていない。または接続が不完全。	接続を確認してください。
	本機のボリュームが最小（0）になっている。	ボリュームを右に回して音量を上げてください。
	再生機器からの入力信号が小さすぎる。	再生機器の音量を上げてください。
	再生機器のサブウーファー出力端子から信号が出ていない。	再生機器のスピーカーモードの設定を確認してください。

仕様

型式 ....アドバンスド ヤマハ アクティブ サーボ テクノロジー II 方式

スピーカーユニット................ 16 cm コーンタイプ、防磁型

アンプ出力

YST-FSW150 .... 75 W (5 Ω、10 % T.H.D.)
YST-FSW050 .... 50 W (5 Ω、10 % T.H.D.)

ダイナミックパワー

YST-FSW150 .... 130 W、5 Ω
YST-FSW050 .... 100 W、5 Ω

入力インピーダンス... 12 kΩ

再生周波数帯域

YST-FSW150 .... 30 Hz ～ 160 Hz
YST-FSW050 .... 35 Hz ～ 160 Hz

入力感度

YST-FSW150 .... 100 mV(50 Hz、75 W/5 Ω)
YST-FSW050 .... 50 mV(50 Hz、50 W/5 Ω)

電源...AC 100 V、50/60 Hz

消費電力

YST-FSW150 ....45 W
YST-FSW050 ....25 W

寸法（幅×高さ×奥行き）

YST-FSW150 ....435 × 151 × 350 mm
YST-FSW050 ....350 × 163 × 350 mm

質量

YST-FSW150 ....9.4 kg
YST-FSW050 ....8.5 kg

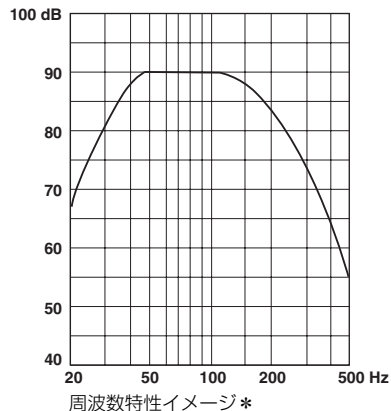
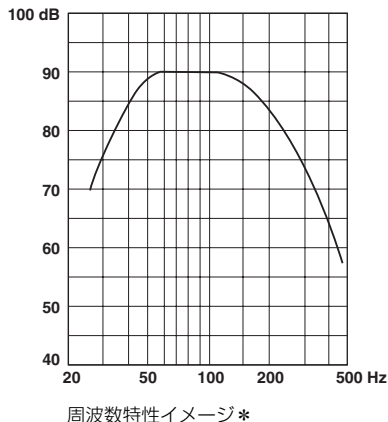
仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。

周波数特性図

YST-FSW150

周波数特性イメージ＊

YST-FSW050

周波数特性イメージ＊

* 実際の周波特性を厳密に表したものではありません。

ヤマハホットラインサービスネットワーク

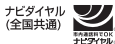
ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただくためのものです。
サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

ヤマハAV製品の機能や取り扱いに関するお問い合わせ

■ ヤマハオーディオ&ビジュアルホームページ

お客様から寄せられるよくあるご質問をまとめておりますので、ご参考にしてください。

http://www.yamaha.co.jp/audio/

■ AVお客様ご相談センター

ナビダイヤル（全国共通） 0570-01-1808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは下記番号におかけください。
TEL（053）460-3409

FAX（053）460-3459
〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町10-1

受 付 日：月～土曜日（祝日およびセンターの休業日を除く）
受付時間：10:00～12:00、13:00～18:00

ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせ

■ ヤマハ電気音響製品修理受付センター

ナビダイヤル（全国共通） 0570-01-2808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは下記番号におかけください。
TEL（053）460-4830

FAX（053）463-1127

受 付 日：月～土曜日（祝日およびセンターの休業日を除く）
受付時間：月～金曜日 9:00～19:00　土曜日 9:00～17:30

修理お持ち込み窓口
受 付 日：月～金曜日（祝日および弊社の休業日を除く）
受付時間：9:00～17:45

北海道 〒064-8543 札幌市中央区南10条西1丁目1-50
ヤマハセンター内
FAX (011)512-6109

首都圏 〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
FAX (03)5762-2125

浜松 〒435-0016 浜松市東区和田町200
ヤマハ(株)和田工場内
FAX (053)462-9244

名古屋 〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2丁目1-2
ヤマハ(株)名古屋倉庫3F
FAX (052)652-0043

大阪 〒564-0052 吹田市広芝町10-28
オーク江坂ビルディング2F
FAX (06)6330-5535

九州 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2丁目11-4
FAX (092)472-2137

*名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。

● 保証期間
お買い上げ日から1年間です。

● 保証期間中の修理
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間が過ぎているとき
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● 修理料金の仕組み
技術料 故障した製品を正常に修復するための料金です。
技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。

部品代 修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。

出張料 製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。
別途、駐車料金をいただく場合があります。

● 補修用性能部品の最低保有期間
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● 製品の状態は詳しく
サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※ 品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。

● スピーカーの修理
スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

● 摩耗部品の交換について
本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。
本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをおすすめします。
摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ電気音響製品修理受付センターへご相談ください。

摩耗部品の一例
ボリュームコントロール、スイッチ･リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

永年ご使用の製品の点検を！

こんな症状はありませんか？
- 電源コード･プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズか変形がある。
- 製品に触れるとピリピリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常･故障がある。

すぐに使用を中止してください。
事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、
必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検･修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社

Printed in Indonesia　WM03450